Ⓐ

平成 28 年度　第 1 次試験問題

経済学・経済政策

1 日目　　10：00～11：00

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙に触れてはいけません。
2. マークシートについての注意事項は次のとおりです。
　これらの事項を守らない場合、採点されませんので、注意してください。

(1) HB または B の鉛筆またはシャープペンシルを使用して、○部分をはみ出さないように、正しくマークしてください。鉛筆またはシャープペンシル以外の筆記用具を使用してはいけません。

良い例	悪い例				
●	⊖	▨	⊗	⊙	◌ うすい

(2) 解答は、選択肢または解答群の中からひとつ選び、所定の解答欄にマークしてください。

(3) 修正する場合は、プラスチック製の消しゴムで消しあとが残らないようにきれいに消して、消しくずをマークシートから払い落としてください。

(4) 所定の欄以外にマークしたり、記入したりしないでください。

(5) マークシートを汚したり、折ったりしないように注意してください。

(6) マークシートは、必ず提出してください。

3. 監督員の指示に従って、受験票に印字されている受験番号と生年月日を、マークシートの該当欄に次のとおり記入、マークしてください。記入、マークが終わったら再確認をして、筆記用具を置いて、試験開始の合図があるまでお待ちください。

(1) 受験番号を、数字で記入してください。

(2) 受験番号を、マークしてください。

(3) 生年月日を、下記の記入例のように記入してください。

〔記入例〕 昭和 59 年 3 月 7 日生まれ→

昭和	5	9	0	3	0	7

4. 試験開始後 30 分間および試験終了前 5 分間は退室できません。
　試験開始後 30 分を経過してから終了 5 分前までの間に退室する場合は、監督員の指示に従ってマークシートを提出してから退室してください。
5. 試験終了の合図と同時に必ず筆記用具を置いてください。また、マークシートの回収が終わり監督員の指示があるまで席を立たないでください。
6. 試験時間中に体調不良などのやむを得ない事情で席を離れる場合には、監督員の指示に従ってください。

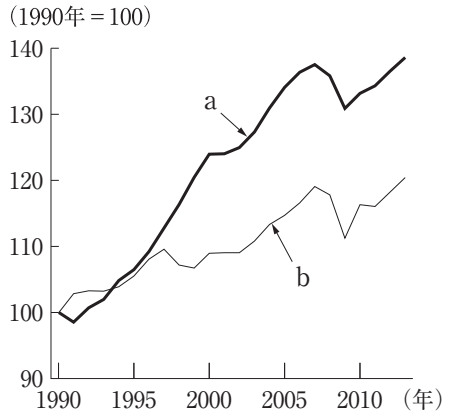
Ⓐ

DKJC-1A

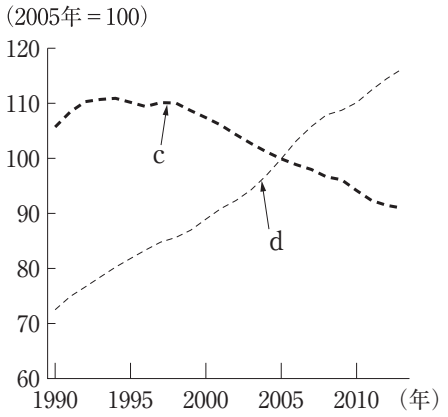
第 1 問

下図は、日本とアメリカの 1990 年以降の 1 人当たり実質 GDP と GDP デフレーターの推移を示している。図中の a ～ d に該当する国の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

1 人当たり実質 GDP の推移



GDP デフレーターの推移



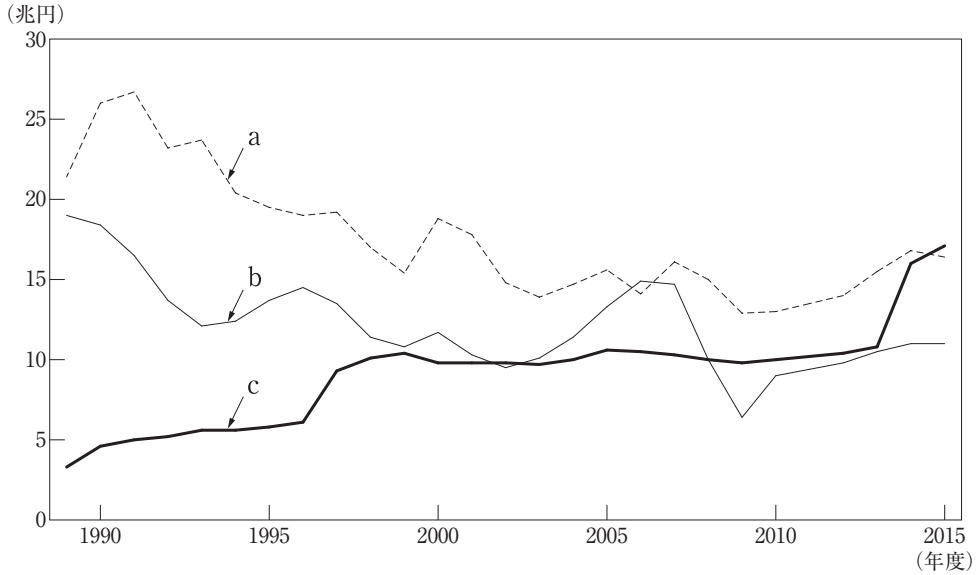
出所：内閣府『経済財政白書』(平成 27 年度版)

〔解答群〕

ア	a：アメリカ	b：日本	c：アメリカ	d：日本
イ	a：アメリカ	b：日本	c：日本	d：アメリカ
ウ	a：日本	b：アメリカ	c：アメリカ	d：日本
エ	a：日本	b：アメリカ	c：日本	d：アメリカ

第 2 問

少子高齢化と経済のグローバル化が進む中で、わが国においても租税制度の体系的な見直しが進められている。下図は、1989 年度以降のわが国の所得税、法人税、消費税の各税収額の推移を示したものであるが、税目名は a 、 b 、 c という形で伏せられている。これら a 、 b 、 c に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



出所：財務省ホームページによる。ただし、2015 年度の値は予測値である。

〔解答群〕

ア　a は所得税であり、 b は消費税である。

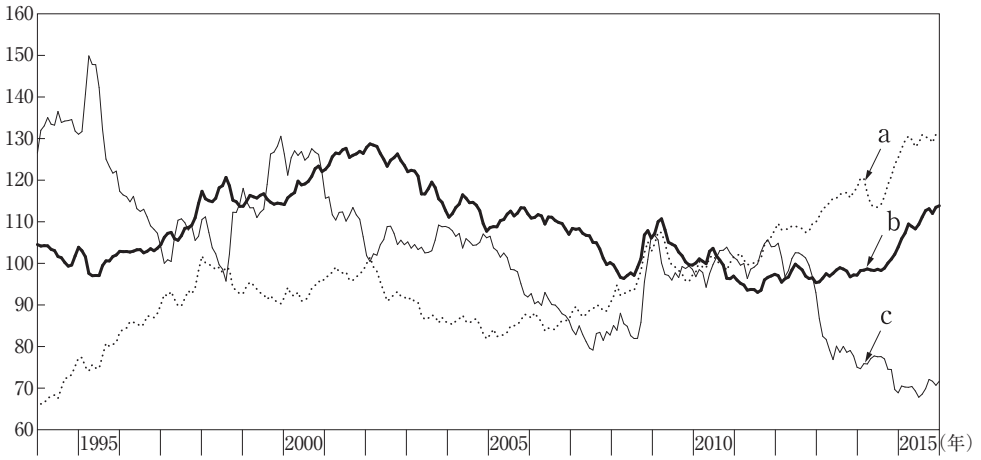
イ　a は所得税であり、 c は消費税である。

ウ　a は法人税であり、 b は消費税である。

エ　a は法人税であり、 c は所得税である。

第 3 問

グローバルな環境にある日本経済は、為替レートの変動によって大きな影響を受ける。下図は、縦軸の上方(下方)ほど通貨の価値が高くなる(低くなる)ようにして、円(日本)、人民元(中国)、ドル(アメリカ)の実質実効為替レートの推移(2010年＝100)を示したものである。図中のａ～ｃに該当する通貨の組み合わせとして、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



出所：国際決済銀行ホームページによる。

〔解答群〕

ア　a：円　　b：人民元　　c：ドル

イ　a：円　　b：ドル　　c：人民元

ウ　a：人民元　　b：円　　c：ドル

エ　a：人民元　　b：ドル　　c：円

第 4 問

マクロの経済活動を表す指標に関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア　国内総生産には、居住者である外国人の所得は含まれない。
イ　国内総生産には、農家の自家消費や持ち家の帰属家賃は含まれない。
ウ　市場価格表示の国民所得は、国民総所得から固定資本減耗を控除したものに等しい。
エ　要素費用表示の国民所得と市場価格表示の国民純生産は一致する。

第 5 問

日本銀行は、2013 年 1 月に「物価安定の目標」として消費者物価の前年比上昇率を 2 %と定めた。これは消費者物価指数(CPI)によって測られる。消費者物価指数に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

a　消費者物価指数は、家計に直接影響する物価の変動を的確にとらえるために、消費者が購入するすべての商品を対象として価格を調査している。
b　消費者物価指数は、家計による消費支出を対象とするので、消費税などの間接税を含まない。
c　生鮮食品を除く総合指数による消費者物価指数は、「コア CPI」と呼ばれる。
d　総務省が作成する消費者物価指数はラスパイレス方式である。

〔解答群〕
ア　a と b
イ　a と c
ウ　b と c
エ　b と d
オ　c と d

第 6 問

賃金に関する考え方の１つに効率賃金理論がある。効率賃金理論に関する記述として、最も適切なものはどれか。

ア　企業が支払う効率賃金の下で完全雇用が実現すると主張する。
イ　均衡賃金に等しい水準の賃金を支払うことが企業の効率的な生産につながると主張する。
ウ　均衡賃金を超える水準の賃金を支払うことが生産性を高め、企業の利潤を増やすと主張する。
エ　均衡賃金を下回る水準の賃金を支払うことが生産性を高め、企業の利潤を増やすと主張する。

第 7 問

デフレーションからの脱却は、日本経済が抱える長年の課題である。デフレーションが経済に及ぼす影響として、最も適切なものはどれか。

ア　デフレーションは、実質利子率を低下させる効果をもち、投資を刺激する。
イ　デフレーションは、賃借契約における負債額の実質価値を低下させるので、債務を抑制する。
ウ　デフレーションは、保有資産の実質価値の増加を通じて、消費を抑制する。
エ　デフレーションは、名目賃金が財・サービスの価格よりも下方硬直的である場合には実質賃金を高止まりさせる。

第 8 問

財市場における総需要 A が以下のように定式化されている。

$$A = C + I + G$$

【C：消費、I：投資、G：政府支出】

ここで、消費 C を以下のように定式化する。

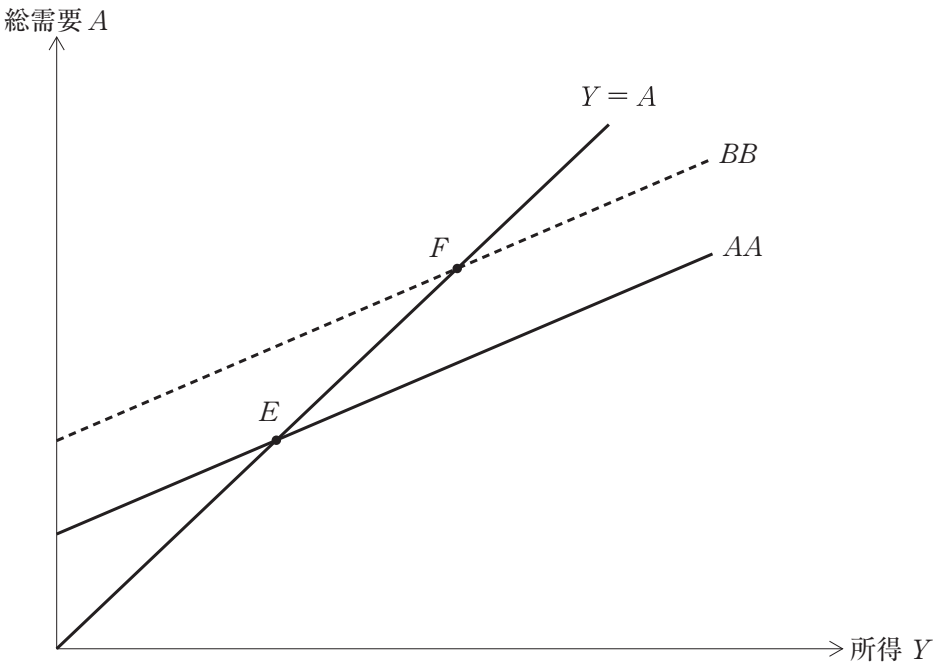
$$C = C_0 + cY$$

【Y：所得、C_0：独立消費、c：限界消費性向$(0 < c < 1)$】

このとき、総需要は $A = C_0 + cY + I + G$ と書き改めることができ、総需要線として下図の実線 AA のように描くことができる。

下図の 45 度線$(Y = A)$は、財市場で需要と供給が一致する均衡条件を示しており、実線 AA との交点 E によって均衡所得が与えられる。なお、簡便化のために、限界消費性向 c は 0.8 であると仮定する。

このような状況をもとに、下記の設問に答えよ。



（設問１）

政府支出乗数と租税乗数の値として、最も適切なものはどれか。

ア　政府支出乗数と租税乗数はともに４である。
イ　政府支出乗数と租税乗数はともに５である。
ウ　政府支出乗数は５、租税乗数は４である。
エ　政府支出乗数は８、租税乗数は２である。

（設問２）

いま、他の条件を一定として、$I + G$ の値が外生的に５増加し、図中の実線 AA が破線 BB へシフトし、点 F で均衡するものとする。このとき、均衡所得の変化量として、最も適切なものはどれか。

ア　4
イ　10
ウ　25
エ　40

第９問

経済成長のためには、企業による投資の増加が必要である。投資の変化を説明する伝統的な理論に加速度原理がある。加速度原理の説明として、最も適切なものはどれか。

ア　生産量が一定のとき、投資は増加する。
イ　生産量の増加が拡大傾向にあるとき、投資は増加する。
ウ　生産量の増加の度合いが小さくなるとき、投資は増加に転じる。
エ　生産量の変化は、在庫の調整によって吸収されるため、投資に影響を与えない。

第10問

財政制度の改正にはそれぞれの目的があるが、これは同時に、財政のビルトイン・スタビライザーの機能にも影響する。財政のビルトイン・スタビライザーの機能に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

a　子育て支援における低所得者向けの給付の拡充は、ビルトイン・スタビライザーの機能を低下させる。

b　所得税における最高税率の引き上げは、ビルトイン・スタビライザーの機能を高める。

c　生活保護における生活扶助費の引き下げは、ビルトイン・スタビライザーの機能を高める。

d　失業者に対する失業給付の拡充は、ビルトイン・スタビライザーの機能を高める。

〔解答群〕

ア　aとc

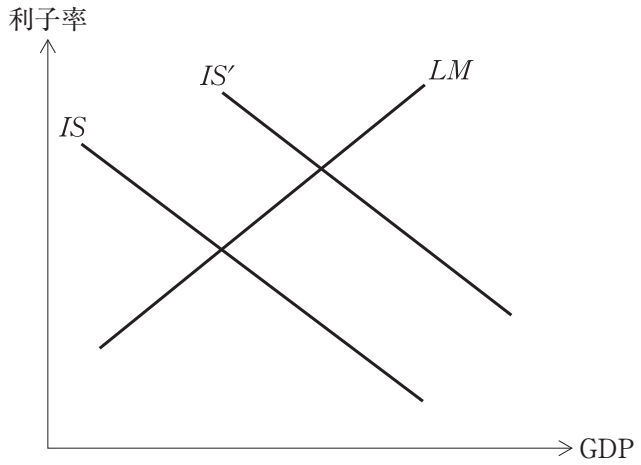
イ　aとd

ウ　bとc

エ　bとd

第11問

財政・金融政策の効果を理解するためには、*IS*-*LM* 分析が便利である。*IS* 曲線と *LM* 曲線が下図のように描かれている。下記の設問に答えよ。



（設問１）

IS 曲線と *LM* 曲線の傾きに関する説明として、最も適切なものはどれか。

ア　*IS* 曲線は、限界消費性向が大きいほど、より緩やかに描かれる。
イ　*LM* 曲線は、貨幣の利子弾力性が小さいほど、より緩やかに描かれる。
ウ　利子率が高くなるほど貨幣需要が拡大すると考えており、したがって *LM* 曲線は右上がりとなる。
エ　利子率が高くなるほど投資需要が拡大すると考えており、したがって *IS* 曲線は右下がりとなる。

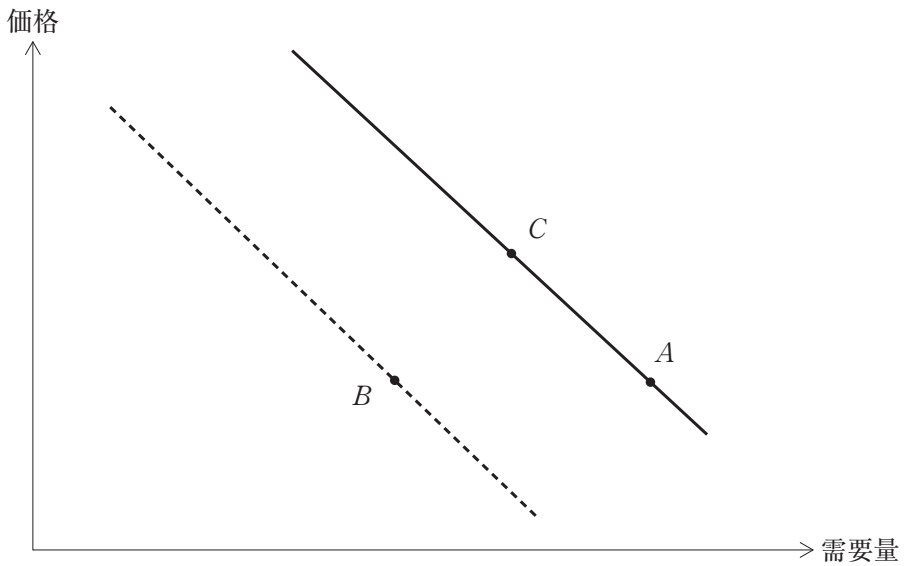
（設問２）

IS 曲線を *IS* から *IS′* へとシフトさせる要因として、最も適切なものはどれか。

ア　外国人観光客の増加による消費の増加
イ　歳出削減による財政健全化
ウ　量的緩和策によるマネタリーベースの増加
エ　老後の生活に備えるための貯蓄の増加

第12問

いま、正常財と考えられる医療に対する需要曲線が下図のように描けるものとする。現状は実線で描かれている需要曲線上の点Aであり、同一の需要曲線上には点Cもある。また、破線の需要曲線上には点Bが描かれている。この図を用いて需要の変化の仕方を考察した記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

ア　医療の価格を引き上げたとき、医療に対する需要は、点Aから点Bまで移動すると考えられる。

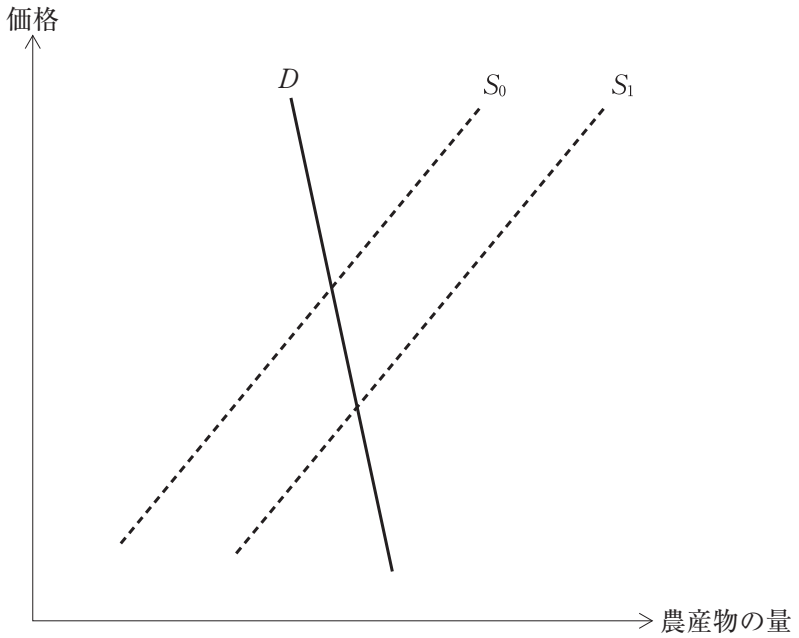
イ　医療費の抑制が必要であることを需要者に説得できたとすれば、たとえ価格が変化しなくとも、医療に対する需要は、点Aから点Bまで移動すると考えられる。

ウ　需要者の所得が増加すれば、医療に対する需要は、点Aから点Cまで移動すると考えられる。

エ　需要者の所得が増加すれば、たとえ価格が変化しなくとも、医療に対する需要は、点Aから点Bまで移動すると考えられる。

第13問

下図では、需要の価格弾力性が1より小さい農産物の需要曲線Dが実線で描かれている。また、当該農産物の供給曲線は破線で描かれており、好天に恵まれるなどの外生的な理由によって、供給曲線が当初のS_0からS_1へシフトしたものとする。この図に関する説明として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

ア　供給曲線の右へのシフトは、価格の低下による需要量の増加はあるものの、生産者の総収入を減少させる。

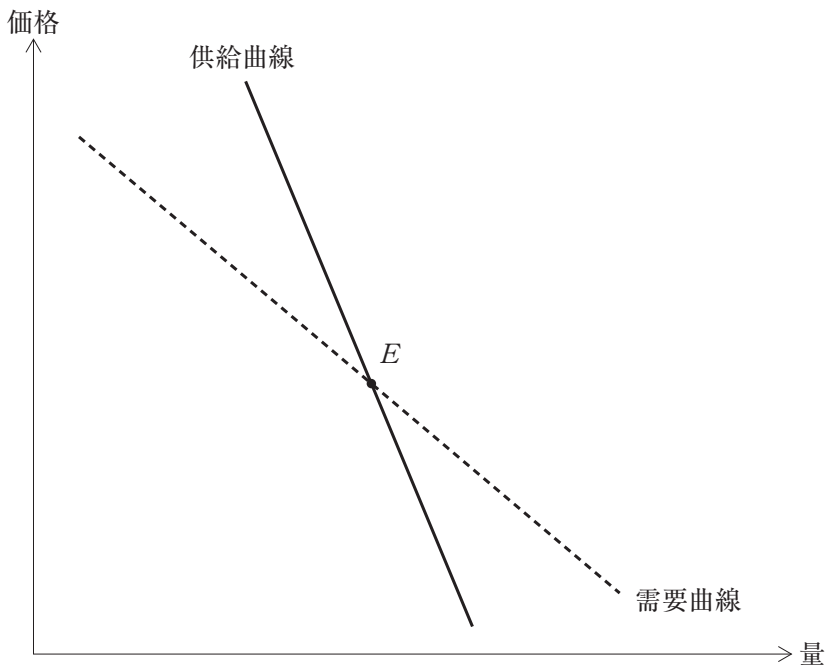
イ　供給曲線の右へのシフトは、価格の低下による需要量の増加を通じて、生産者の総収入を増加させる。

ウ　供給曲線の右へのシフトは、価格を低下させるものの、需要量には影響を与えない。

エ　供給曲線の右へのシフトは、価格を低下させるものの、生産者の総収入には影響を与えない。

第14問

下図には、相対的に緩い傾斜の需要曲線が破線で描かれ、相対的に急な傾斜の供給曲線が実線で描かれている。これら需要曲線と供給曲線の交点は、点Eとして与えられている。この図に関する説明として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

ア　供給曲線が右下がりであるため、ワルラス的調整を通じて点Eへ収束する力は働かない。

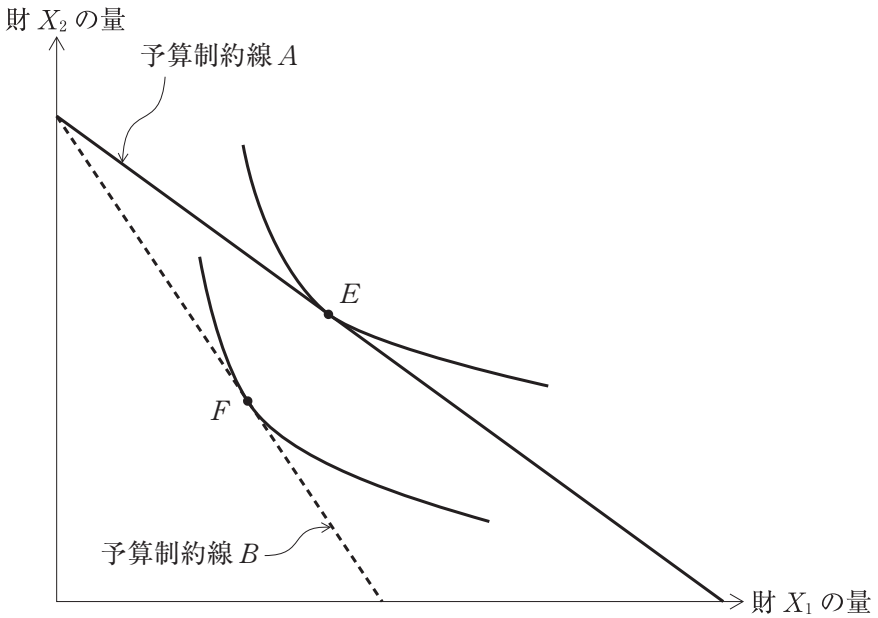
イ　供給曲線の傾きが相対的に急であるため、「蜘蛛の巣理論」による調整を通じて点Eへ収束する力は働かない。

ウ　交点よりも価格が高いとき、需要量よりも供給量が多いため、価格調整を通じて点Eへ収束する力が働く。

エ　交点よりも数量が少ないとき、供給価格が需要価格よりも高いため、マーシャル的な数量調整を通じて点Eへ収束する力が働く。

第15問

ある個人が限られた所得を有しており、財 X_1 と財 X_2 を購入することができる。下図には、同一の所得にもとづいて、実線の予算制約線 A と破線の予算制約線 B とが描かれている。また、予算制約線 A と点 E で接する無差別曲線と、予算制約線 B と点 F で接する無差別曲線も描かれている。下図に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

ア　等しい所得の下で予算制約線が描かれているので、点 E と点 F から得られる効用水準は等しい。

イ　予算制約線 A と予算制約線 B を比較すると、予算制約線 B の方が、財 X_2 の価格が高いことを示している。

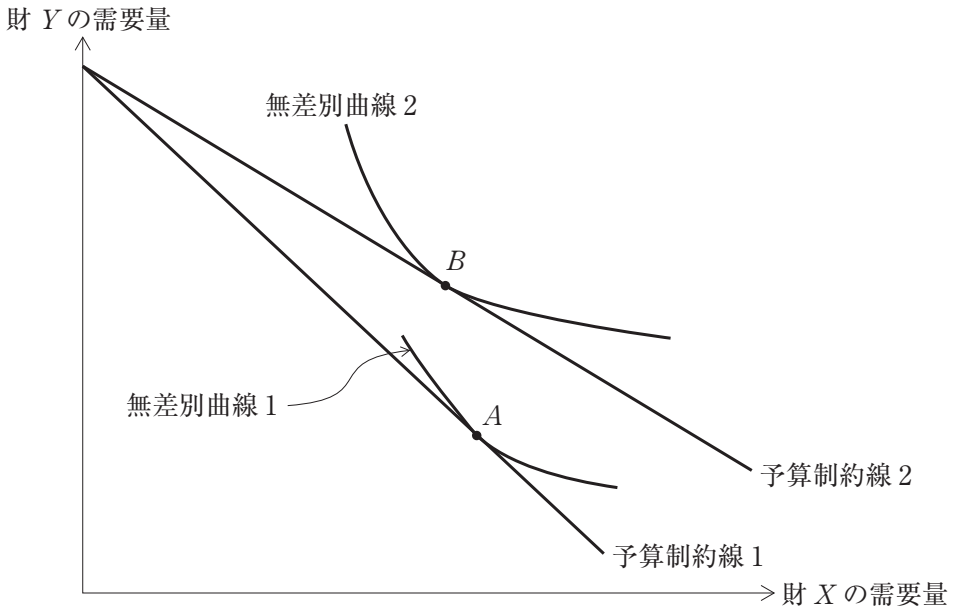
ウ　予算制約線 A と予算制約線 B を比較すると、予算制約線 B の方が、実質所得が高いことを示している。

エ　予算制約線 A と予算制約線 B を比較すると、両財の相対価格が異なることが示されている。

第16問

いま、ある合理的個人が、限られた所得の下で2つの財(X, Y)を需要する状況を考える。2つの財の需要量は、それぞれD_XおよびD_Yと表記し、財Xの価格をP_Xと表記する。

下図は、予算制約線1と無差別曲線1が点Aで接する状況から、他の条件を一定としてP_Xのみが下落し、予算制約線2と無差別曲線2が点Bで接する状況へと変化した様子を描いたものである。この図に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。



a　財 Y の価格を一定として P_X が下落したとき、代替効果で D_X が増加した。同時に、P_X の下落は、所得効果によって D_X を減少させた。上図では、代替効果よりも所得効果が大きいため、財 X はギッフェン財の性質を示している。

b　財 Y の価格を一定として P_X が下落したとき、代替効果で D_X が増加した。同時に、P_X の下落は、所得効果によっても D_X を増加させた。上図では、代替効果と所得効果がともに D_X を増加させていることから、財 X はギッフェン財の性質を示している。

c　財 Y の価格を一定として P_X が下落したとき、D_Y が増加した。これは、財 Y が財 X の粗代替財であることを示している。

d　財 Y の価格を一定として P_X が下落したとき、D_Y が増加した。これは、財 Y が財 X の粗補完財であることを示している。

〔解答群〕

ア　a と c

イ　a と d

ウ　b と c

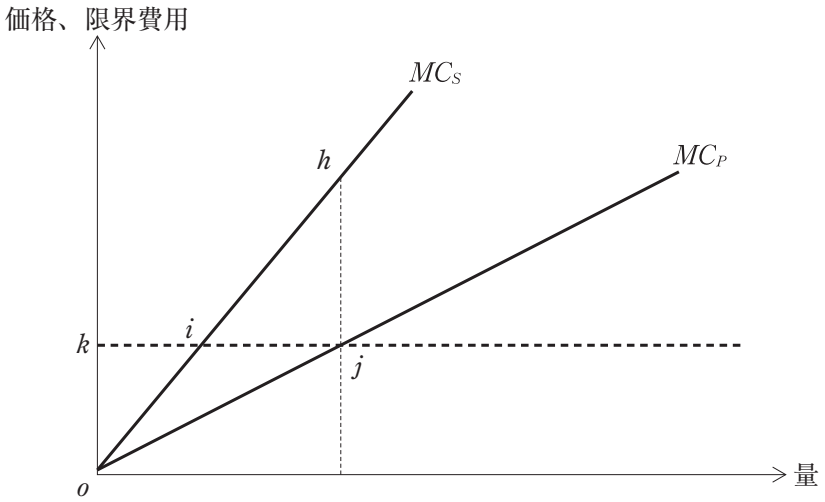
エ　b と d

第17問

いま、完全競争下にある合理的な企業の生産活動を考える。当該企業が生産活動で考慮する私的限界費用 MC_P は下図のように描くことができるものとし、価格が k であるものとして生産量を決定している。

ただし、当該企業の生産ではいわゆる「負の外部性」が生じている。負の外部性を考慮した社会的限界費用 MC_S は、私的限界費用に社会的負担を加えたものとして下図のように描くことができる。当該企業は、外部性を考慮することなく、価格 k と私的限界費用が一致する生産量を選択するが、社会的に最適な生産量は価格 k と社会的限界費用が一致する生産量であるため、社会的には過剰生産による厚生損失(デッドウエイトロス)が生じてしまう。

このとき、下図に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。



a　外部性を考慮しない当該企業の私的な生産費用の大きさは、△ *oik* で示される面積に相当する。

b　外部性を考慮しない当該企業の私的な生産者余剰の大きさは、△ *ojk* で示される面積に相当する。

c　外部性によって生じるデッドウエイトロスは、△ *ohj* で示される面積に相当する。

d　外部性によって生じるデッドウエイトロスは、△ *hij* で示される面積に相当する。

〔解答群〕

ア　a と c

イ　a と d

ウ　b と c

エ　b と d

第18問

地球温暖化を防止するためには、二酸化炭素(CO_2)などの温室効果ガスの排出量を削減することが必要である。CO_2 の排出量を削減するためのインセンティブをより高める手段として、最も不適切なものはどれか。

ア　企業が生産に伴って CO_2 を排出することに着目して、CO_2 排出企業に減産補助金を与えること。

イ　企業が生産に伴って CO_2 を排出することに着目して、CO_2 排出企業に対して CO_2 排出量に応じた課税をすること。

ウ　私たちの生活における車の利用が CO_2 を排出することに着目して、ガソリンの消費に対して課税をすること。

エ　私たちの日常の生活が CO_2 を排出することに着目して、すべての人に 1 人当たり定額の課税をすること。

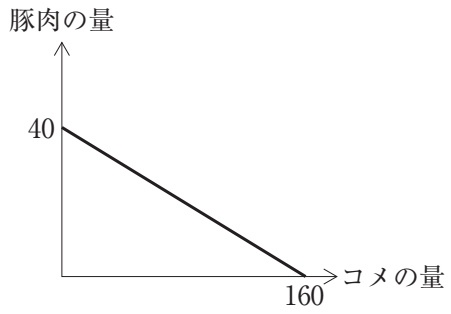
第19問

いま、A さんと B さんだけが存在し、それぞれコメと豚肉のみが生産可能な世界を考える。下表は、A さんと B さんが、ある定められた時間 T のすべてを一方の生産に振り向けた場合に生産可能な量を示している。また、下表にもとづく 2 人の生産可能性フロンティアは、下図にある右下がりの直線のように描けるものとし、A さんと B さんは、自らの便益を高めるために生産可能性フロンティア上にある生産量の組み合わせを選択する。

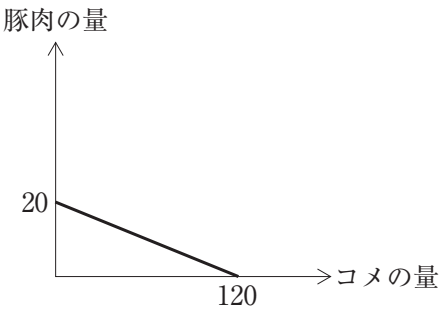
このような状況を説明する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

	時間 T で生産できる量	
	コメ	豚肉
A さん	160	40
B さん	120	20

A さんの生産可能性フロンティア



B さんの生産可能性フロンティア



〔解答群〕

ア　A さんは、いずれの財の生産においても、B さんに対して比較優位を有するために、B さんとの生産物の交換から便益を得ることができない。

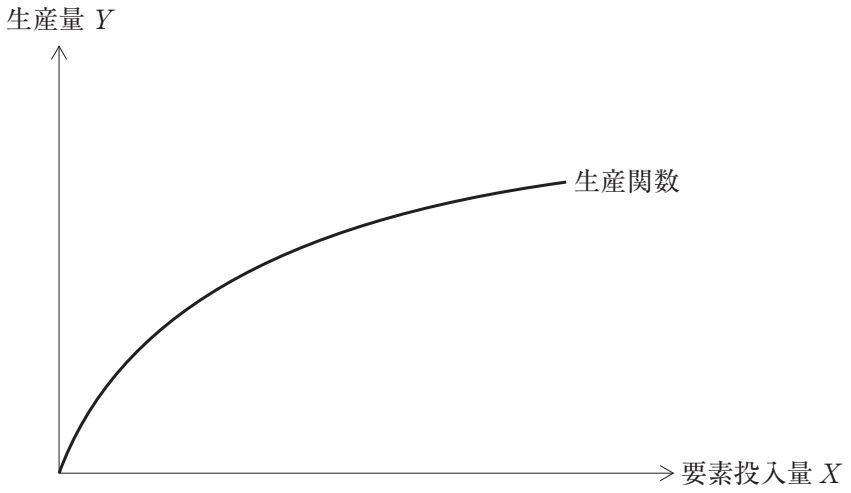
イ　A さんは、いずれの財を生産するにせよ B さんよりも生産性が高く、絶対優位を有するために、B さんとの生産物の交換から便益を得ることができない。

ウ　比較優位性を考慮すると、A さんはコメの生産に、B さんは豚肉の生産にそれぞれ特化し、相互に生産財を交換し合うことで、双方が同時に便益を高めることができる。

エ　豚肉の生産について、A さんは B さんに対して比較優位を有する。

第20問

いま、ある１つの投入要素のみを使って、１つの生産財を生産する企業を考える。この企業の生産活動を規定する生産関数は、下図のような形状をしているものとし、要素投入量はゼロより大きい。下図に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。なお、ある要素投入量 X に対する生産量が Y であるとき、$\frac{Y}{X}$ を「平均生産物」と呼び、ある要素投入量に対応する生産関数の接線の傾きを「限界生産物」と呼ぶこととする。



a　平均生産物の大きさは、要素投入量が増えるほど小さくなる。

b　限界生産物の大きさは、要素投入量には依存しない。

c　どの要素投入量においても、平均生産物の大きさは、限界生産物の大きさよりも大きい。

d　要素投入量がある程度まで大きくなると、限界生産物の大きさは、平均生産物の大きさよりも大きくなる。

〔解答群〕

ア　a と c

イ　a と d

ウ　b と c

エ　b と d

第21問

いま、1つの要素を用いて1つの生産財を生産するものとする。要素投入量を x とし、その1単位当たりの購入価格を w とする。また、生産財の生産量を y とし、その1単位当たりの販売価格を p とする。このとき利潤 π は、$\pi = py - wx$ と書くことができ、$y = \frac{\pi}{p} + \frac{w}{p}x$ と書き直すこともできる。

以下にある4つの図は、縦軸を生産量、横軸を要素投入量として、一般的な生産関数を実線で描き、上記で導いた $y = \frac{\pi}{p} + \frac{w}{p}x$ を破線で書き加えたものである。

企業の利潤最大化が実現することを示す図として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

図 A

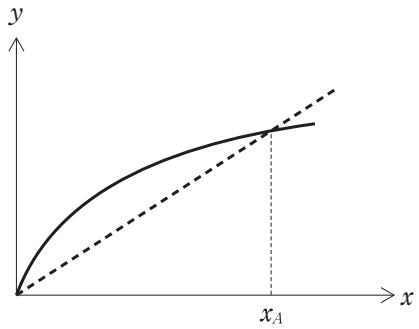


図 B

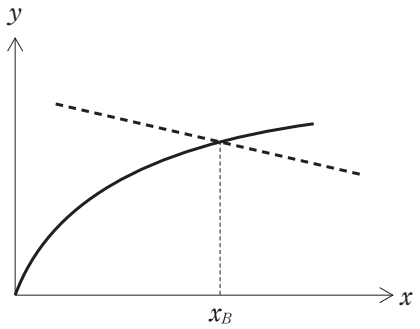


図 C

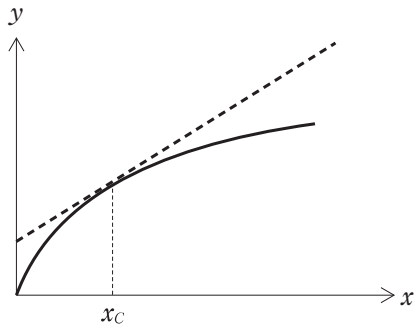
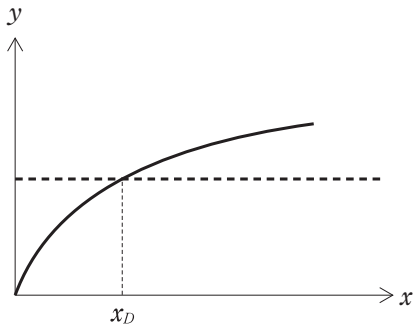


図 D



〔解答群〕

ア　図 A

イ　図 B

ウ　図 C

エ　図 D

第22問

多くの地方自治体が、地域活性化の手段として、企業誘致に取り組んでいる。企業の市場への参入や立地は、企業の費用構造や他の企業との関係性と密接な関連をもつ。企業行動に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

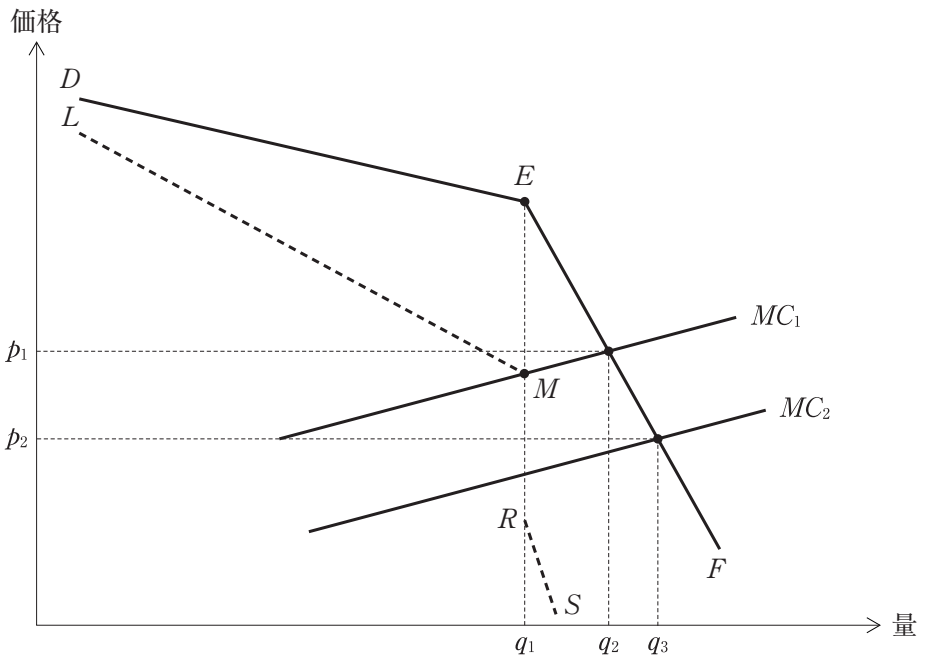
a　収穫逓減産業では、限界生産力が低下するので、範囲の経済のメリットを享受しうる。
b　収穫逓増産業では、生産規模の拡大を通じて規模の経済のメリットを享受しうる。
c　企業が集中して立地することにより集積の経済のメリットを享受しうる。
d　費用逓減産業は、長期平均費用が低くなるので、中小企業にとって参入が容易である。

〔解答群〕

ア　aとc
イ　aとd
ウ　bとc
エ　bとd

第23問

下図では、利潤最大化を目指す合理的な企業が直面する寡占市場を念頭において、点 E で屈曲する「屈折需要曲線」DEF が描かれている。この需要曲線の DE 部分に対応する限界収入曲線が線分 LM、EF 部分に対応する限界収入曲線が線分 RS である。いま、当該市場で q_1 の生産量を選択していた企業の限界費用曲線 MC_1 が MC_2 へシフトしたものとする。下図に関する記述として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。



〔解答群〕

ア　限界費用曲線が MC_2 へシフトしたことにより生産量を q_1 から q_2 へ増加させる。

イ　限界費用曲線が MC_2 へシフトしたことにより生産量を q_1 から q_3 へ増加させる。

ウ　限界費用曲線が MC_2 へシフトしても、価格は変わらない。

エ　限界費用曲線が MC_2 へシフトすると、価格を p_1 から p_2 へ引き下げる。